

和食ブームを支えるワサビの施設化による超促成・高付加価値生産技術の実証

〔分野〕	野菜・花き
〔分類〕	実証研究型
〔研究代表機関〕	山口県農林総合技術センター（ワサビ超促成実証コンソーシアム）
〔参画研究機関〕	静岡県農林技術研究所、佐賀県農業試験研究センター、（地独）山口県産業技術センター、オイシックス・ラ・大地（株）、佐藤産業（株）、（有）ほうえい堂
（普及担当機関）	山口県農林総合技術センター農業担い手支援部・岩国農林水産事務所・周南農林水産事務所・山口農林水産事務所、佐賀県佐賀中部農林事務所
〔研究・実証地区〕	山口県岩国市・周南市・山口市、静岡県伊豆市、佐賀県佐賀市

I 目指す地域戦略と研究の背景・課題

1. 地域戦略の概要

ワサビ栽培に耐雪型2重アーチハウスを導入し、施設化による栽培期間の短縮化と生産安定を図るとともに、ワサビ花茎どり技術など高付加価値生産体系を付与することで収益性の高いワサビ生産体系を確立する。また、新たなワサビ加工品の開発やネット販売等によりワサビの需用を創造する。これにより、国際競争力を高めるとともに、新たな担い手を確保し、産地活性化を図る。

2. 研究の背景・課題

ワサビは、「わさび田」や「林間畑」といった特殊な栽培地で栽培するため、新規参入や規模拡大が難しい。また、栽培に2～3年かかり、未収益期間が長い。さらに、自然災害や気象変動の影響も受けやすく、生産が不安定である。加えて、中国やインドネシア等からの開発輸入により産地は疲弊している。一方、世界的な和食ブーム、消費者の国産・本物志向の高まりから、需要は急増している。そこで、施設化により、栽培期間を短縮し、増産することで需要の高まりに応えるとともに、新規参入が容易な環境を作る。

II 研究の目標

①沢ワサビでは、栽培期間を6か月短縮し、根茎300kg/10aを得る。②畑ワサビでは、栽培期間を9か月短縮し、花茎400kg/10a及び加工原料5t/10aを得る。③葉ワサビでは、3t/10a及び加工原料2t/10aを得る。④葉ワサビ収穫後の株を用いて、ワサビスプラウト生産を実用化する。⑤ワサビ+トマトの複合経営で490万円、ワサビ+ホウレンソウの輪作経営で350万円/10aの粗収益を得る。⑥ワサビ新規加工品1種以上開発し、香港での販売を倍増させる。

III 研究計画の概要

1. ワサビの施設化による短期栽培技術の確立

- (1) 沢ワサビでは、耐雪型2重アーチ構造パイプハウスを導入し、短期栽培用品種「伊づま」を用いて栽培期間を6か月短縮する。
- (2) 畑ワサビでは、練りわさび原料となる葉柄生産に特化した超促成栽培を耐雪型ハウス内で実証を行う。
- (3) 葉ワサビでは、養液栽培により収穫を12月まで前進化させ、5月までの長期・多収どりの実証を行う。
- (4) 種子の乾燥処理と低温貯蔵の組み合わせにより複数年の種子貯蔵法を確立する。
- (5) 耐雪型2重アーチ構造パイプハウスを山口県及び静岡県の実証圃に導入し、耐雪性を実証を行う。

2. ワサビの高付加価値生産技術の開発

- (1) 冬期にワサビの花茎を収穫できるように超促成栽培技術を改良する。
- (2) 葉ワサビの養液栽培の栽培終了株を用いて、ワサビスプラウトの生産技術を開発する。
- (3) 施設化で栽培地が固定化することで顕在化する病害虫に対して、循環型防除技術を組み立て実証を行う。

3. 収益性向上のための輪作・複合経営モデルの構築

- (1) 畑ワサビと夏秋トマトの複合経営の経営評価を行い、高収益モデルを構築する。
- (2) 畑ワサビと夏ホウレンソウの輪作の経営評価を行い、高収益モデルを構築する。

4. 農工商連携、6次産業化による新規加工品の開発と需要創造

- (1) ワサビの部位別の加工適性を評価し、簡易な素材化技術を開発する。
- (2) (1)の素材を用いて、自社製品の改良、新たな和風菓子を開発する。
- (3) ネット上に「バーチャル道の駅」を開設し、香港を対象にネットでの試験販売を行う。

和食ブームを支えるワサビの施設化による超促成・高付加価値生産技術の実証

施設化によりワサビの栽培期間の短縮と高付加価値生産を実現、農工商連携により新たな需要を創造する。

ワサビ超促成・高付加価値生産の実証と経営モデルの構築

山口県農林総合技術センター

- 花茎どり超促成栽培技術の実証
- ワサビを核とした経営モデルの構築
- 循環型防除技術の開発

佐賀県農業試験研究センター

- 葉ワサビの超促成養液栽培の実証
- ワサビスプラウト栽培技術の確立

静岡県農林技術研究所

- 沢ワサビの促成栽培技術の実証
- 種子の簡易長期貯蔵技術の確立

- 普及担当機関
山口農林総セ・農業担い手支援部
山口県岩国・周南・山口農林水産事務所
佐賀県佐賀中部農林事務所
静岡県東部農林事務所(協力機関)

農工商連携による新規加工品の開発と需要創造

佐藤産業株式会社

- 耐雪型2重アーチハウスの導入

山口県産業技術センター(有)ほうえい堂

- ワサビの加工素材化とこれを使った新規加工品の開発

オイシックス・ラ・大地(株)

- 日本ブランドwasabiの海外へのチャレンジ

協力機関：株式会社カネク島根工場、山口県わさび生産者団体連絡協議会、山口県周南市、静岡県山葵組合連合会、伊豆の国農業協同組合、静岡県東部農林事務所

1. ワサビの施設化による短期栽培技術の確立



耐雪型2重アーチハウスの導入



短期栽培用新品种



練りわさび原料の超促成

2. ワサビの高付加価値生産技術の開発



ワサビの花茎



ワサビのスプラウト

3. 収益性向上のための輪作・複合経営モデルの構築

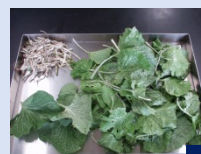


トマト、ホウレンソウ



ワサビ

4. 農工商連携、6次産業化による新規加工品の開発と需要創造



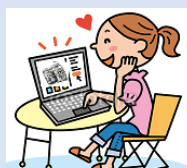
ワサビの葉、根



素材化



ワサビ風味和菓子



香港をターゲットにネット販売を試行